2025年４月13日

地区研修・協議会

職業奉仕について

Rotary
国際ロータリー第2820地区
職業奉仕総括委員長 安 圭一

ロータリークラブの職業奉仕とは！

まずはロータリーの基本理念から。

以下「職業奉仕の手引き：実践しよう」
「ロータリアンの行動規範」
（国際ロータリー発行）　から引用します

ロータリーの基本理念

ロータリーの目的は、意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むことにある。

具体的には、次の各項を奨励することにある

第1　知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること

第2　職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものにすること

第3　ロータリアン一人一人が、個人として、また事業および社会生活において、日々、奉仕の理念を実践すること

第4　奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること。

「職業奉仕」という概念

「ロータリーの目的」は、ロータリーの存在目的とロータリアンの責務について記した哲学的な声明です。

職業奉仕は、「目的」の第2項を土台としており、この項で、ロータリアンは次のことを奨励し、育むことが求められています。

- 職業上の高い倫理基準
- 役立つ仕事はすべて価値あるものという認識
- 社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を 高潔なものとすること

職業奉仕はロータリーの核心であり、世界中の地域社会で奉仕を行う土台となるものです。

高い倫理基準の実践を通じて高潔性を推進することは、ロータリアンとして不可欠の要素です。その中で生まれたのが、「四つのテスト」と「ロータリアンの行動規範」の2つであり、職場や生活のあらゆる場面で倫理的行動を実践するための指針となっています。

四つのテスト

言行はこれに照らしてから

1　真実かどうか

2　みんなに公平か

3　好意と友情を深めるか

4　みんなのためになるかどうか

1932年、シカゴ・ロータリー・クラブ会員で、1954-55年度に国際ロータリー会長を務めたハーバート J. テイラーにより発案されました。倒産寸前の会社を建て直す役目を担ったテイラーは、仕事における全側面において従うべき倫理的指針として「四つのテスト」を創り、このシンプルな哲学のおかげで、この会社は倒産を免れました。その後、1934年に国際ロータリーで採用されて以来、「四つのテスト」はロータリアンが倫理的行動を測る上での重要な物差しとして用いられてきました。このテストは、多くの言語に翻訳され、世界中でロータリアンにより奨励されています。

The Four-Way Test Of the things we think, say or do

1. Is it the truth?

2. Is it fair to all concerned?

3. Will it build goodwill and better friendship?

4. Will it be beneficial to all concerned?

2.　みんなに公平か
Is it fair to all concerned？

「fair」は、「公平」ではなく「公正」

「concerned」は、「四つのテスト」を商取引に限るか否かで、「取引先」と考えるか、「みんな」でよいか、解釈が変わる

ロータリアンの行動規範

１　個人として、また事業において、高潔さと高い倫理基準をもって行動する。

２　取引のすべてにおいて公正に努め、相手とその職業に対して尊重の念をもって接する。

３　自分の職業スキルを生かして、若い人々を導き、特別なニーズを抱える人びとの生活の質を高める。

４　ロータリーやほかのロータリアンの評判を落とすような言動は避ける。

職業奉仕の歴史

「職業奉仕とは何でしょうか。結論から述べると、職業生活を営んでいく上で、自らの事業に関連する関係者(顧客・従業員・取引業者)を対象にして行う全ての活動を総称して、職業奉仕と呼んでいます。

従って職業奉仕の活動の場は、自らの職場だということになりますし、奉仕活動の主人公は、事業主であるあなた自身だということになります。そして職業奉仕を実践した成果は、これらの関係者全員に及びます。

この考え方を提唱したのが、アーサー・フレデリック・シェルドンであり、それを具体的に表すモットーとして作られたフレーズが、「He profits most who serves best 最も多く奉仕する者、最も多く報いられる」です。

なお、このモットーは、元来、1902 年に創立された、シェルドン・スクールのために作られたモットーであり、「The Golden Rule 黄金律 Do unto others as you would have them do unto you 貴方が他人からしてもらいたいことを、先に他人にしてあげなさい」を経営学に基づく奉仕理念に基づいて分かり易く言い直した文章だと説明しています。」

以上　田中毅「シェルドンの奉仕理念」

「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」

1910　全米ロータリー大会（シカゴ）～1911（ポートランド）

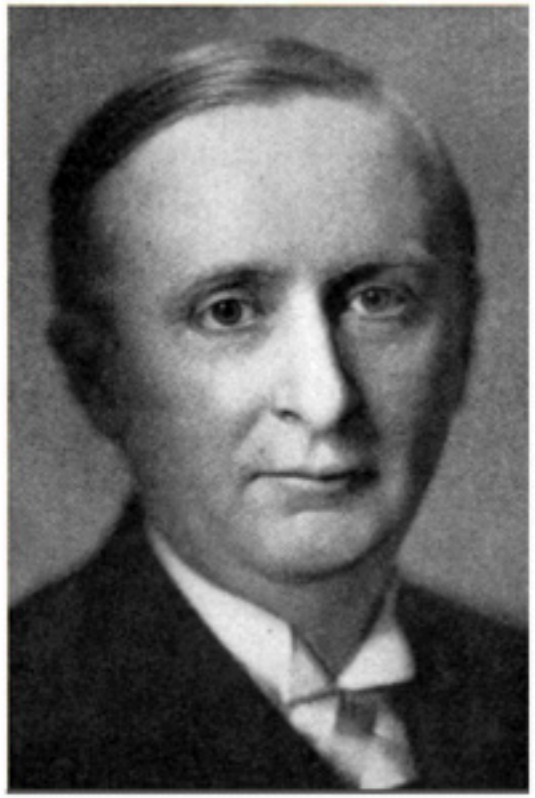
アーサー・フレデリック・シェルドン

He profits most who serves his fellows best

→ 1921年、シェルドンが
「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」
（He profits most who serves best）
に修正し、行動理念として提唱。

→ 2004年の規定審議会でHeをThey、
2010年の規定審議会でTheyをOneに。

職業奉仕の理念



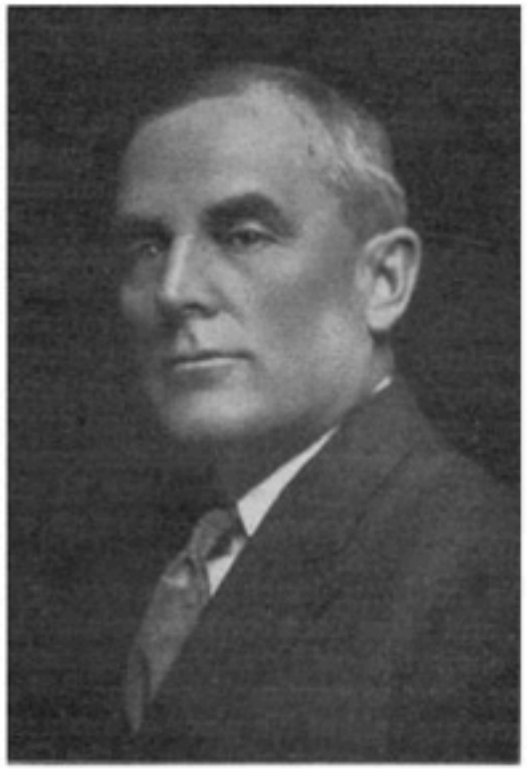
「超我の奉仕」

ベンジャミン・フランクリン・コリンズ

1911　全米ロータリー大会（ポートランド）

演説でコリンズが
「無私の奉仕」（Service not Self）を引用

⇨　「無私の奉仕」はいきすぎであるとし、
「超我の奉仕」（Service above Self）に修正



人道的奉仕活動の理念

※ 当初は職業奉仕理念であったが・・・
（ by田中毅氏『シェルドンの森』）

職業奉仕の実践例

- 例会で、各会員が自分の職業について話し、互いの職業について学び合う。

尊重しあう＝親睦（信頼できる仲間づくり）

- 地域社会での奉仕プロジェクトで職業スキルを生かす

ご自身の職業（スキル）でボランティア活動する。
清掃活動、炊き出しだけがボランティアではない。

職業奉仕とそれぞれの奉仕活動

- 若者のキャリア目標を支援する　　＝青少年奉仕
- 専門能力の開発を奨励し、指導する
　　＝青少年奉仕、社会奉仕、国際奉仕
- 高潔さを重んじて仕事に取り組み、言動を通じて模範を示すことで倫理的な行動を周囲に促す（四つのテスト）＝世界平和

職業スキルを奉仕に生かし、自らの職業をクラブで代表するとともに、職場においてもロータリーの理念を実践する責務があります。

職業奉仕の精神は奉仕部門の大地であり、幹である！

ロータリーの樹

＊『ロータリーの樹・２００８』を一部修正いたしております。

2

2008年RI国際協議会
「ロータリーにおける職業奉仕の重要性について」講演　渡辺好政RI理事

「ロータリーの樹・２００８」　→ 2013年RI規定審議会で採択

「1905年、ポール・ハリスら４名によって創始された最初のロータリークラブは、その歴史が示すように、初めに、親睦、助け合いから始まりました。

すなわち、ロータリーの樹に水と栄養を送る「根」は「クラブ奉仕」であります。ロータリークラブ会員は、クラブという学校で相手のことに思いを馳せ、相手を助けるという『奉仕の理想』を学び、その真意が『共存共栄』であることがわかります。

『クラブ会員』は、ロータリーの目的を基本として、H.テーラーによって実証され、ロータリアンの行動規範である「四つのテスト」による奉仕活動の実際を体得することによって、『ロータリアン』に進化してまいります。

ロータリークラブ会員からロータリアンに進化してゆく過程の基盤には、A.シェルドンの『超我の奉仕』『最もよく奉仕するもの、最も多く報いられる』が存在いたします。私たちは、この２つのモットーを１枚のコインの表・裏と考えながら、日常の奉仕活動に邁進しております。ロータリーは「理念の高唱」に終わるのではなく「行動の哲学」なのであります。」

マイロータリーを活用して、職業奉仕を学ぼう！

マイロータリーには、ラーニングコースが公開されています。

ぜひ、ご活用ください。

職業奉仕の手引き：
実践しよう

Rotary

「ロータリー」という名称

ロータリーの名称は、創設当初、ローテーション（輪番）で各会員の職場を例会場としていたことに由来します。この伝統は現在も、ロータリアンが自分の職業をクラブに紹介するというかたちで残っています。それぞれのクラブ会員に職業・専門分野やスキルについて例会で紹介してもらいましょう。

ロータリアン行動グループに参加する：さまざまな専門分野ごとにグループがあり、ロータリアン、その家族、ロータリープログラムの参加者・学友がメンバーとなっています。メンバーは、クラブや地区によって成果あふれる奉仕プロジェクトが実施されるよう、助言したり、協力したりできます。詳しくは **rotary.org/ja/actiongroups**をご覧ください。

ロータリー親睦活動グループに参加、または新たにグループを結成する：同じ関心や趣味をもつロータリアン、その家族、ロータリープログラムの参加者・学友と楽しく交流できるのが、「ロータリー親睦活動グループ」です。執筆、編集・出版、保健、法律、写真、警察など、多くのグループは特定の職業分野に関連しています。詳しくは**rotary.org/ja/fellowships**をご覧ください。

奉仕プロジェクトで職業スキルを活用する：科学、医学、機械エンジニアリング、起業、金融、パブリックスピーキング、執筆などの自分の職業スキルを生かして、地域社会に変化をもたらす奉仕プロジェクトに参加しましょう。

地区リソースネットワークで専門知識を生かす：ロータリーの6つの重点分野、プロジェクトの計画と実施、ニーズ調査、成果の測定、あるいは大規模な補助金プロジェクトにおけるその他の側面に関する専門知識をお持ちの方は、地区の国際奉仕委員長にご連絡ください。自分の専門知識・スキルを用いて、地元クラブの活動や大きなインパクトを生むプロジェクトの立案に貢献できます。

職業に関連するロータリー友情交換に参加する：異文化における特定分野の職業体験に関心のある地区間で交換活動が実施できるよう、地区ロータリー友情交換委員長と連絡を取りましょう。若い職業人にも参加してもらい、海外で自らの職業に対する理解を深めながら、異文化交流ができる交換活動を計画しましょう。

職業奉仕は倫理規範！

職業奉仕とは、ロータリアンにとっての倫理規範である。

ロータリアンの活動（職業）に常に意識するべき、指針であり、それに従った行動をすることが大切。

社会のリーダーとして様々な場面で活躍しよう！

各クラブ内で、職業奉仕について語り合いましょう！

ご清聴ありがとうございました！